

■ おわりに

キャリアコンサルティングにおいては、正しい手順や技法といった決まった型はなく、常に臨機応変に対応することが必要です。相談場面の主役は相談者です。よって、あくまでも相談者を中心に、相談内容に応じて進めることが求められます。自分の安心のために、「必勝パターン」を磨いていくことは熟達とは言いません。むしろ、自分のパターンを押し付けることで相談者に負担をかけていることに気づくべきでしょう。

話をちゃんと聴いて相談者を理解すること、相談者本人が問題を理解して目標や課題を決める支援をすること、相談者本人が決められるような正しい情報を提供できるようになることが、キャリアコンサルタントに求められています。

— profile —

石崎 一記(いしざき かずき)

東京成徳大学教授。1級キャリアコンサルティング技能士。

平成14年度より現在まで、厚生労働省キャリアコンサルティング研究会委員、同研究会各種部会座長等を歴任。また同省キャリアコンサルタント登録制度等に関する検討会委員も担当。

発達心理学の視点から、働く人の伴走者として幸せづくりのお手伝いをするに取り組んでいる。What a Wonderful Worldの世界の実現がライフワーク。

Chapter

4

自己研鑽について

自己研鑽には様々な方法がありますが、ここでは特に面談力の向上に必要な、相談過程の理解方法や面談の振り返りである事例検討について紹介しています。

面談力の向上のためには、今、目の前で展開されている相談のプロセスについて正しく認識し、相談を終えたら、自身でその内容を適切に振り返ることが重要です。面談内容を検討するためには、事例記録を作成することが有効であり、これをもとに、スーパービジョンを受けたり、事例検討会に参加するなど、自身の面談力向上のためのさらなる自己研鑽が可能となります。